

モンゴル国ウランバートル市第54学校

ホロルスレン学校長・仙台二高訪問印象口述筆記録

- (1) 訪問日時：2006年11月2日（木）午後3時～4時半
- (2) 面会者：仙台二高 柏葉校長 渡辺教頭 の両先生
- (3) 同行者：鈴木壮夫（高11回） 鈴木美恵子 山本絢子 ツラレゲル（通訳）
- (4) 訪問目的：鈴木夫妻はモンゴルとの草の根交流団体「ホランの会」の会員で今回ホロルスレン学校長の日本訪問に際し、自宅のホームステイの他、仙台市での教育環境と施設を視察していただくため母校にご無理をお願いしました。
- (5) 第54学校：3地区に校舎があり、生徒数は約5000人、教師は約200人。1年生から11年生までの公立学校。日本の小・中・高の一部の一貫教育が同国では主流。5年生で英語、7年生で第二外国語が必修（日本語を学んでいる生徒は270人）。横綱・朝青龍は同校OB。ホロルスレン学校長は1958年生れの女性。モンゴル国立大学卒業。

以下は帰りの新幹線車中にて窓際から学校長・通訳・美恵子との席で口述筆記したものです。ホロルスレン学校長が語ったそのままの記録になっております。

(6) ホロルスレン学校長の仙台二高訪問印象記録

東京地区では中学校三校を見学しました。高等学校は今日が初めてです。

仙台二高の歴史の重さと水準の高さを感じました。

日本の高校は生徒達が学ぶための環境を良くすることに皆が協力し働いていることを知りました。

先生達の働いている環境も良いです。一人ずつの机が職員室にあり、学科ごとの準備室や面談室があったのにも驚きました。

今まで男子校だったから、男の子たちの体力向上のための部活が活発なのも素晴らしいことです。

柔道部・剣道部・サッカー場・野球場・バレーボール・バスケットボール等の施設が立派で、手入れも行き届いている。

特に柔道部の歴代部員の名前が木札に書かれ、掲げられていることに驚きました。

それを見てもっと頑張る気力が生れてくるので、今勉強している生徒にとっても良いことだし、何年も前に卒業した生徒にとっても「私の母校」という誇りが持てると思います。一番素晴らしいと思ったのは図書館でした。

蔵書の多さもさることながら、生徒達に必要とされる本や、新しい本や、先生達が勧める本等を紹介するコーナーもあったことです。

こういう図書館をモンゴルでも創りたいという気持ちになりました。モンゴルでは本が少ないので生徒達がいくら本を読みたいと思ってもかなえられないのです。

校庭も広くて素晴らしいと思いました。野球やサッカーをする広い敷地があるからこそ、生徒の体力を向上させることができると感じました。

そして又、卒業生の美術作品が飾られていることも素晴らしい。学校の中を卒業生の絵画や彫刻や壁画で飾ることは後輩に良い影響を与えます。

生徒達の様子も見学することができましたが、生徒が自習している姿がすごかった。物理の実験室で先生がいなくても、発表の準備をしている姿を見て素晴らしいことだと思った。

自習室を見て、モンゴルにはこのようなものがないので良いアイデアになりました。パソコン教室には一人に一台ずつのパソコンがあること。音楽室には楽器がたくさんそろっていることなど、モンゴルとの学校とは大きな差があることを痛感しました。経済的な力がモンゴルはまだだだと思われました。

校長先生から頂戴した「手拭い」という物も学校としての特徴、日本の文化というものが感じられました。

校長、教頭先生には貴重な時間をいただいて、案内・説明をして下さったことに厚く感謝しております。

以上 筆記者 鈴木美恵子



仙台二高・校長室にて